

飯南

議
会
報

い
い
な
ん

第44号
平成28年1月20日

- 02 12月定例会
可決された主な議案 陳情
- 03 年頭のごあいさつ
平成27年度一般会計補正予算
- 04 一般質問
- 11 議会は見ている 議会活動報告
- 12 決算審査特別委員会報告
議会全員協議会の議題
- 13 討論 採決の結果
- 14 常任委員会報告
- 16 明日を拓く



平成27年

12月定例会終わる

12月8日から18日までの11日間の日程で開きました。

第2次飯南町振興計画(案)

町全体として大きく変革する社会情勢に対応し、次世代に豊かな生命を伝えていくことを目指して、これからのまちづくりの指針となる第2次飯南町総合振興計画が示されました。

これは、平成28年度から10年間の目指す町の将来像やまちづくりの基本方針を表したものです。

基本理念は、小さな町からの「生命地域」宣言。将来像は、笑顔あふれる飯南町で10年後にも笑顔あふれるまちを目指すとしています。

頓原公民館整備事業

本定例会で提案された一般会計補正予算(第4号)に頓原公民館(社会教育施設整備事業)があります。これは、土地購入費、設計委託料などです。

今後、検討委員会の意見をもとに地域の事情や特色を加味し、地域振興の拠点として設計・整備していくものです。

年頭のごあいさつ



飯南町議会議長 小野 覚

あけましておめでとうございます
健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年の飯南町は、「地方創生」に取り組んだ一年でした。人口ビジョンの策定、第2次飯南町総合振興計画案や飯南町農業振興計画の策定など、本町発足10年の節目の年でもありました。

本年は次の10年に向かって、新たなスタートの一年になります。議会も強い緊張感をもって全力で取り組むことをお誓いし、年頭のごあいさつといたします。

「可決された主な議案」

■ 認定

平成26年度飯南町各会計歳入歳出決算認定

■ 条例関係

飯南町個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例の制定など7件

■ 補正予算

平成27年度飯南町一般会計補正予算(第4号)など9件

■ 諸議案

- ・財産の取得(平成27年度飯南町本庁倉新築準備)
- ・平成26年度飯南町本庁倉建築工事請負変更契約の締結

「陳情」

国民健康保険制度の維持・発展の意見書提出を求める陳情

【陳情者】 松江市浜乃木四丁目4番1号

島根県保険医協会

会長 岩田 兼正

【審査委員会】 総務厚生常任委員会

【審査結果】 継続審査

【平成27年度 一般会計補正予算】

頓原公民館整備事業費増・町債繰上げ償還金など

2億9344万円増額

各 会 計	補正予算額	予算総額
一般会計	2億9344万円	82億5296万円
国民健康保険事業	178万円	7億4200万円
簡易水道事業	200万円	4億7193万円
下水道事業	1050万円	4億1648万円
介護保険サービス事業	0万円	3022万円
病院事業会計	53万円	13億1110万円
特別会計		



町長 高橋 英樹

情報開示は不十分

町長 高橋 英樹

情報開示がすすみ進められたことは大変遺憾であり、国会決議は守られなかった国には国民に及ぼす影響を丁寧に説明する責任がある。

T P P は具体的な対策と7ツで評価すべきと思う。

T P P から脱退を

政府はT P P の大筋合意を国会にも報告せず、国民的な議論もなのまま既成事実として押し付けようとしているが交渉は総崩れに終わっていると思う。

国会は、農産品の重要5品目は関税撤廃や削減は行わないよう求めていた。大筋合意は、国会決議破りと思うかどうか。

T P P による国民生活への影響もつまびらかにすべきと考えるかどうか。

地方6団体で決議されたT P P ストップへ全力を挙げるべきではないか。

防災訓練は再考を

防災訓練は、必要だから行うのか、条例に謳ってあるから行うのか不明である。

今回の訓練では、警報の発令・避難指示の発令を聴いてから避難することになっていたが避難指示発令時には要援護の方も含め、すでに集合されていた。橋を渡って集合場所へ集まったのも問題だ。日頃の行動がとつた場合に現れる。点呼などで参加者を常に把握することが求められる。訓練を改善すべきと思うかどうか。

専任の防災担当者を各地区に委嘱すべきだ。万一の場合に役割を果たしてもらえ。

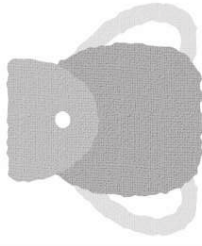
自分たちの地域・住民の安全は自分たちが守る考え方が重要と考えるかどうか。

防災マニュアルの整備も必要だし、防災は定住の要になるという意見もあるかどうか。

中身を検討

町長 高橋 英樹

必要だからやるわけだが、臨場感が足りない。要援護者の件も指摘の事はしっかりと肝に銘じて生かしていく。趣旨はまったくその通りと思う。よく中身を勉強して検討する。



誤解のない条例表記を

法律の表記で「又はは」「二」方だけを行うことも、双方を行うことでもできる」とされる。

しかし「又はは」いずれかを選択する接続詞であり、誤解を招きやすい表記である。

条例の表記は、わかりやすく、誤解を生じないようにすべきだ。

法律の表記に精通していないと理解できない表現はやめるべきと考えるかどうか。

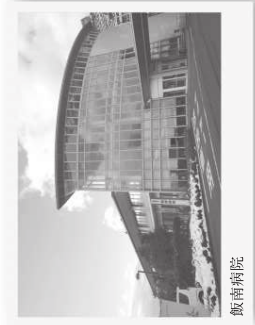
分かりやすい表記に

町長 高橋 英樹

分かりやすい表記への意識が高まっており、分かりやすい表記をしなければならぬ。職員を指導していく。



議員 内藤 眞



飯南病院

飯南病院に人工透析導入を

人工透析のため町外へ通院している患者が19人いる。透析に4時間、通院に1時間以上かかり身体的精神的負担が大きい。

設備や医療スタッフの確保等の投資が必要だが、患者の苦痛を緩和することが大切であり、飯南病院へ人工透析の導入を考えてはどうか。

検討する状況にない

町長 山崎 英樹

町外への通院治療患者やその家族の負担は大きい。従来は、交通費の助成だけであったが、現在は、医療機関への送迎事業を行っている。

飯南病院の見解は、医師等人材不足の状況から、常勤医が幅広く診るというビジョンで、持続可能な医療体制を構築する。

透析治療は、患者やその家族だけでなく国全体の医療費という面からも負担が大きいため、予防的な医療介入が重要だ。

初期投資とランニングコストを考えると採算は厳しく、他に優先すべき課題が多い。

以上の理由で、透析医療導入を検討する状況にないというところであり、私も同様に考える。

高齢者に買物、通院支援を

昨年、町内事業者が高齢者の買物支援を目的に、移動販売を開始した。当初経費が賄えない状況であったようだが、町からの支援により継続されている。引き続き支援が必要ではないか。

また、高齢者は買物や病院への通院をする機会が多く、交通機関の見直しが必要だ。デマンドバスを導入してはどうか。



デマンドバス導入を研究

町長 山崎 英樹

昨年10月、高齢者や交通弱者への買物支援対策として移動販売が開始された。事業者には、手探りの中でのサービス提供に感謝している。

本年度から、移動販売車運営支援事業として運営経費の一部を助成している。来年度も本年度の実績を確認し予算化する。

また、高齢者の買物、通院等の移動手段として、公共交通バスを利用して頂いている。住民のニーズに対応したダイヤの改正や路線等の見直しを行なうため、飯南町地域公共交通計画策定を進めている。

その中で、地域によってはデマンドバスの運行が適しているケースも考えられ、導入に向け研究する。

一般質問

12月定例会



高橋 英次 議員

Q 来島診療所の医療体制を問う

来島診療所には、常勤医師1名が配置され、医療の提供や各福祉施設との連携により、飯南病院を核とした地域包括医療ケアが進められているが、今年度末で、現在の常勤医師が退任されると聞いている。常勤医師が居るといことは、町民の健康管理や各福祉施設の安定的な運営、さらには、福祉サービス利用者の早期治療にも繋がっている。医療体制の継続的維持と充実、介護の安定的供給は喫緊の課題であり、地域医療の核となる飯南病院、来島診療所を町民行政協議会が一体となつて守つていかなければならないと考えるかどうか。

A 医療体制継続に

町長 山崎 英樹

本町では、「生きがい村構想」をもとに、飯南病院を核として、来島診療所、各福祉施設と連携し、地域包括医療ケアの取り組みを進めている。来島診療所の常勤医師には、本年の7月で2年の任期が到来したが、平成28年3月まで延長してもらっている。飯南病院長の人脈、島根県の支援を頂き、具体的に交渉している医師がいる。住民の安心な暮らしを守り、地域医療の継続のために招へいに向けて全力で取り組む。



一般質問

12月定例会



門 眞一郎 議員

Q 定住と6次産業の二兎を追え

京都府綾部市では、Iターンを呼び込むため都市住民との交流に力を入れ、体験事業を通して、土地柄や人の良さを見たり、感じてもらうことで定住につなげていた。本町でも取り組まれているが、事業にまで発展していない。交流・体験事業には移住を促す効果、農業体験や民泊を事業化することによる経済効果も期待できる。定住対策と6次産業化の二兎を追う考えはないか。

A 有効な事業を展開したい

町長 山崎 英樹

本町は、平成26年度から、ふるさと島根定住財団の「しまね暮らし体験プログラム」を活用し、随時募集型の飯南町仕事や住居の体験プログラムを実施している。受入農家は、わずかではあるが収入になっている。観光協会も、農業などの産業体験、民泊などを含めた旅行商品を売り出していくことが求められている。これは経済効果を目的としているが、移住に繋げることが大切だ。町民、定住支援センター、観光協会、産業界連携などがしっかりと連携して、有効な事業を展開したい。



新設のリースハウス(赤名)

Q T P P に負けない施設野菜生産の拡大を

T P P が台風に至つたが、本町の農産物が影響を受けることは避けなければならない。振興作物のメロン、トマト、パプリカなどは影響を受けにくい利点を持っている。これを生かし、さらに振興に努め、農業で生活のできる農家を育成しなければならない。

そのためにはリースハウス事業の積極的拡大が急がれる。作物は、共同選果により市場評価を高め、選果落ちは加工商品化することにより、新たな雇用が生まれ、6次産業化が進むと考えるがどうか。

A 全力で取り組む

町長 山崎 英樹

平成28年度から5年間の飯南町農業振興計画を策定した。U・Iターン者の就業促進と担い手の確保、安全安心な農産物生産、高原野菜、果樹、特産品の推進と6次産業化、園芸ハウスの周年活用を掲げ、園芸振興を進める。来年度予算の中で支援策を組み立てたい。「笑顔で輝く農業」を副題としており、関係機関とともに全力で取り組む。



年末のもちつき(飯南町産産加工施設:赤名)

一般質問

12月定例会

Q 選挙学習にどう取り組む

国会に於いて、選挙権年齢を20歳から18歳に引き上げる改正公職選挙法が全会一致で可決成立した。それに伴い、町内の小中学校に於いても主権者としての自覚を育み、選挙の仕組みを正しく理解するという、基本的な政治学習が必要になると思うが、義務教育9年間に於いて、どのような取り組みを考えているのか問う。

A 学習指導要領に基づいて

教育長 安部 巨

小中学生のうちから、政治の仕組みや選挙の重要性を学習することは、社会人として必要とされる基本的な資質を養う意味で必要だ。小中学校では6年生の社会の時間に、中学校では3年生の公民の時間に、社会参画の態度を身につける事や、選挙の意義を学習するように定められている。これを踏まえ、より適切な指導が行われるように各学校と連携していきたい。



赤名小学校



永井 章 議員

◎志々小学校校舎の整備を

志々小学校の児童数は、この1年間で増加し、今後も飯岡町人口ビジョン及び戦略事業によって増加が期待される。しかし、校舎は築60年が経過し、外壁の劣化、床板の傾き、内壁のクラック等老朽化が顕著になっている。耐震補強工事は、木造のため困難であるが、防災上問題があるので校舎の診断を実施し、その結果で整備計画の方針を考えるべきではないか。



志々小学校

◎教育環境の維持に努める

教育長 安部 巨

志々小学校の児童数の推移は、一定数の確保はできているが、予断を許さない状況にある。木造校舎の良さを保つため、細やかな修繕を施し、教育環境の維持に努める。校舎診断は、木造の場合には耐力化調査になり、現地調査を伴うことから多額の費用がかかる。その結果の判断には、専門的見地から総合的な検討を要するので、今後の検討課題としたい。



長島 正一 議員

◎農村価値創生交付金等の創設要望を

町長 山崎 英樹

町村会として、経営所得安定対策等に継続的対応が出来る「T P P対策基金」や農村の価値を高める独自の対策を実施できるよう「農村価値創生交付金」を創設すべきとの要望を行っている。

◎T P Pへの対応は

T P Pの大筋合意は、長期的には米価の下落を招き、担い手不足に拍車をかける懸念がある。国は、輸出の拡大や農地の集積、大規模化により攻めの農業を掲げているが、一方で所得補償制度の廃止が決定され、持続的経営が心配される。国、県への要望活動の状況を問う。

◎担い手対策に向け集落連携の構築を

高齢化によって、組織の担い手不足が起きている。本町も集落間の連携が進みつつあるが、情報提供に努め、全地区で広域連携協定を進むよう支援すべきではないか。また、農業版「人材バンク」設置の考えを問う。



保健福祉センター(飯原)

◎農業版人材バンク設置に向け研究を

町長 山崎 英樹

中山間地域等直接支払制度のメリットを生かした集落の広域連携支援に向け、農地保全活動支援員を置き、相談体制を整える。広域連携を目指し、農業版人材バンクは研究する。

◎基幹支所の理念は

旧町村の衰退は、伝統文化など、地域の特性を失い、人口減少に拍車をかける結果となる。地域の特性の視点で、支所の在り方が問われると思うが、どう考えるか。

◎地域振興を重視

町長 山崎 英樹

本庁舎移行を機に、地域振興を重視した組織機構とする。

◎支所長の権限と予算は

支所だから出来る、縦割りの弊害をなくした地域づくりに向けた取り組みが重要と考える。地域振興の拠点として、まとめ役である支所長の権限と予算のあり方は重要な意味を持つと思うが、どの様に考えているのか。また、公民館との連携の考え方はどうか。

◎一定の権限と予算を

町長 山崎 英樹

地域振興を進めるうえで、一定の権限と予算は必要と考えている。指揮命令の在り方は模索している。本町では、より広い目的を持った公民館を目指し、地方創生のため、公民館、自治振興組織、支所が連携し推進する。



永井 章 議員

◎志々小学校校舎の整備を

志々小学校の児童数は、この1年間で増加し、今後も飯岡町人口ビジョン及び戦略事業によって増加が期待される。しかし、校舎は築60年が経過し、外壁の劣化、床板の傾き、内壁のクラック等老朽化が顕著になっている。耐震補強工事は、木造のため困難であるが、防災上問題があるので校舎の診断を実施し、その結果で整備計画の方針を考えるべきではないか。



志々小学校

◎教育環境の維持に努める

教育長 安部 巨

志々小学校の児童数の推移は、一定数の確保はできているが、予断を許さない状況にある。木造校舎の良さを保つため、細やかな修繕を施し、教育環境の維持に努める。校舎診断は、木造の場合には耐力化調査になり、現地調査を伴うことから多額の費用がかかる。その結果の判断には、専門的見地から総合的な検討を要するので、今後の検討課題としたい。



戦断作物の有力候補(トマト)

◎施設園芸のモデルに支援を

平成27年度新規事業として、農産物生産拡大と就農者初期投資の抑制を目的に、リースハウス事業がスタートした。来年度町内の営農組合が、高冷地を生かした施設園芸や露地栽培を転換しているが、特産振興・雇用の確保が図られ、町のモデル事業になるよう期待している。事業の内容と財政支援について問う。

◎農業振興計画に沿って

町長 山崎 英樹

本町では、28年度から5年間の農業振興計画を策定し、その中で園芸振興を推進することとしている。このたび、町内の営農組合が取り組むこの事業は、J Aの指導を受け実施される。延べ面積2000㎡の施設で、大玉トマト1万本を定植し、露地栽培としてレタスを計画している。支援策は施設園芸支援制度の見直しを検討中で、飯岡町農業振興計画に沿って進める。

議会は見ている

農家の所得向上につながるか



カントリーエレベーター



妹尾昌明センター長

初年度の利用状況
などから、飯南米プ
ランド化に向けた課
題を明らかにし、解
決に向け取り組んで
いかなければならま
せん。

今回は、JA島根飯南経済センターの妹尾センター
長に今後の考え方を聞きました。

目標は特裁米の普及

飯南町カントリーエレベーターは平成26年
度に10億円余の予算を投じて建設し、平成27年
から運用しています。処理能力は乾粒重量にし
て1999t、日処理量は115tです。

食味値による仕分けシステムやフルカラー
色彩選別機能などの最新設備を持ち、他産地との
差別化に対し有効です。

飯南町はうるち米の80%を特裁米に切り替え、
安心、安全な環境に優しい米づくりを目指して
います。
これまで多収を目指し、県下1位の収粒量と
品質を維持してきた慣行栽培から、特裁米への
切り替えは難しい課題となっています。
めまぐるしく変化する米情勢は、予測困難な
状況にあります。転作廃止や、TPPの影響を
考慮しても、安全・安心な農産物が消費者から
求められることは間違いない。産地として生き
残るためには、全国的に取り組みされている特
裁米への切り替えは、最低条件となっています。
まずは、生産者の意識改革から始め、具体的
に特裁米の推進対策、技術対策、販売対策、品質
向上対策に取り組みます。

平成27年産米カントリーエレベーターの利用実績

品 種	荷役重量 (t)	平均効 率(%)	処理重量 (t)	処理白 米(%)	予選白 米(%)	予選 量(t)	推定玄米 量(t)
コシヒカリ	792	24.4	696	7.4	75.9	631	631
特選コシ	290	24.3	252	7.6	74.5	230	230
飯直白コシ	24	21.5	21	7.0	79.1	19	19
あゆむすか	20	24.8	17	7.1	78.0	16	16
酒 米	95	24.2	85			63	63
合 計	1,221		1,071			959	959

昨年秋から稼働 カントリーエレベーター

飯南町カントリーエレベーターは平成26年
度に10億円余の予算を投じて建設し、平成27年
から運用しています。処理能力は乾粒重量にし
て1999t、日処理量は115tです。

食味値による仕分けシステムやフルカラー
色彩選別機能などの最新設備を持ち、他産地との
差別化に対し有効です。

平成27年産米カントリーエレベーターの利用実績

品 種	荷役重量 (t)	平均効 率(%)	処理重量 (t)	処理白 米(%)	予選白 米(%)	予選 量(t)	推定玄米 量(t)
コシヒカリ	792	24.4	696	7.4	75.9	631	631
特選コシ	290	24.3	252	7.6	74.5	230	230
飯直白コシ	24	21.5	21	7.0	79.1	19	19
あゆむすか	20	24.8	17	7.1	78.0	16	16
酒 米	95	24.2	85			63	63
合 計	1,221		1,071			959	959

議会活動報告 [10月～12月]

- 10月2日 議会広報編集委員会：一般質問要約作業
- 10月5日 決算審査特別委員会：紙面改正
- 10月8日 決算審査特別委員会：島根県議会議員研修会(松江市)
- 10月10日 決算審査特別委員会：島根県議会議員研修会(松江市)
- 10月13日 決算審査特別委員会：島根県議会議員研修会(松江市)
- 10月15日 決算審査特別委員会：島根県議会議員研修会(松江市)
- 10月19日 議会広報編集委員会：島根県議会議員研修会(松江市)
- 10月21日 島根県議会議員研修会(松江市)
- 10月22日 島根県議会議員研修会(松江市)
- 10月26日 島根県議会議員研修会(松江市)
- 10月27日 島根県議会議員研修会(松江市)
- 10月29日 島根県議会議員研修会(松江市)
- 10月30日 島根県議会議員研修会(松江市)
- 11月6日 決算審査特別委員会：島根県議会議員研修会(松江市)
- 11月8日 島根県議会議員研修会(松江市)
- 11月12日 島根県議会議員研修会(松江市)
- 11月14日 島根県議会議員研修会(松江市)
- 11月15日 島根県議会議員研修会(松江市)
- 11月16日 島根県議会議員研修会(松江市)
- 11月17日 島根県議会議員研修会(松江市)
- 11月18日 島根県議会議員研修会(松江市)
- 11月21日 島根県議会議員研修会(松江市)
- 11月24日 島根県議会議員研修会(松江市)

町政を問う 一般質問

12月定例会



早樋 徹雄 議員

例規集の整備を

飯南町の条例、規則は電子化され、条例を調べるには通常インターネットを利用するようになっている。外部からも検索でき、便利にはなっているが、冊子になっていない。条例は議会の議決を経て制する。飯南町では、職員は条例や規則を身近なものとして捉える環境を整える必要がある。

冊子にした場合、電子例規に加え、加除などの維持経費は増えると思うが、個々の政策能力、組織力向上のため例規集を整える必要があると思いませんか。

A 整備する方向で検討

町長 山崎 英樹

例規集は合併当初に整備し、その後、平成22年に電子化した。

加除式の例規集整備は、職員一人ひとりが町全体の定めを身近に目を遣すことにより、職員の能力向上につながると思いますが、年間100万円程度の経費が必要だ。

質問をうけ、例規集を整備する方向を基本に検討していきたい。



積極的な町道整備を

本町にとって交通の確保は極めて重要だ。しかし、町道の中には幅員が狭く改良が望まれる道路も多くあり、積極的に整備して住みよい環境を整えていく必要がある。

本年度から6年間の事業として始まった泉宮中山間地域総合整備事業で要望のあった町道が農道整備として計画されており、さらに波及するよう望む。

また、早期の改良が困難な町道については、路肩の補強を行うなど、生活路線の質の向上を図ることが住民の安全・安心につながる。

本町の社会資本整備に、生活道路の整備は最も重要だ。町道整備に対する考えを問う。

A 総合整備事業で対応

町長 山崎 英樹

新たな事業、泉宮中山間地域総合整備事業は平成23年に計画し、総合事業18億円余りかけて、本年より平成32年までの6年間で事業を行う。

この事業で、営農飲雑用水整備、圃場整備5地区、用排水整備25地区と、そのうち農道9路線で9億2000万円の事業を予定している。短期間でより有益な整備が出来るよう研究努力を行う。

路肩コンクリート工法は施工単価が高く、一般維持修繕には用いないが、生活基盤を整える上では有効だと考え、事業化したい。



農道として整備予定の町道(来島地区内)

討論

平成26年度飯南町各会計歳入歳出決算認定

反対討論 伊藤好晴議員

一般会計では指定管理料は改善された様子がない。営業内容を精査し、縮小や撤退も含め、再検討すべきだ。

学習支援館は、疑問が発生しない運営が求められる。

国民健康保険事業特別会計は保険料が引き上げられ、国保保険料の払えなくなる世帯が出る可能性がある。支払能力に応じた保険料を確立すべきだ。

2つの会計決算について反対する。

賛成討論 なし

・飯南町個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例の制定

・飯南町税条例の一部を改正する条例の制定

・飯南町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定

■ いずれもマイナンバー制度施行に伴う改正

国民が制度を詳しく知らず、情報漏れへの不安が拡大している。地方自治体や企業の対策も遅れている。

国民の支持や理解が広がらない制度は、中止しかない。

賛成討論 熊谷兼樹議員

本法の必要事項である利用範囲を限定し、その用途を厳格かつ限定的に扱うため制定するもの。

届出事務の簡便性や効率化を実現するための措置であり、賛成だ。

・飯南町議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の改正

・飯南町消防団員等公務災害補償条例の改正

■ 共済年金と厚生年金を統合することによる改正

反対討論 伊藤好晴議員

共済年金の保険料を引き上げて厚生年金にそろえるもの。低い方にそろえる引き上げ競争は、年金制度を悪くする。基法に反対する立場から反対だ。

賛成討論 門真二郎議員

共済年金と厚生年金の統合は年金制度の将来性を確保するもの。これに伴う改正なので賛成だ。



決算審査報告

決算審査特別委員会 委員長 難波 俊司

平成26年度飯南町各会計歳入歳出決算について審査の結果を報告します。

審査の対象

- ・平成26年度飯南町一般会計歳入歳出決算書及び関係書類
- ・平成26年度飯南町国民健康保険事業外4件の特別会計歳入歳出決算書及び関係書類
- ・平成26年度飯南病院事業会計歳入歳出決算書及び関係書類

審査意見

一般会計と特別会計の決算額(病院事業を除く)は、対前年比歳入で106.0%、歳出が107.7%となっている。

財政指標は経常収支比率は91.4%と前年対比2.4%の増。実質公債費比率は13.7%。将来負担比率46.1%と前年より改善し、早期健全化基準を下回っている。

未収金

収入未済額は6125万円で前年に比べ250万円余の増加となっている。また、特別会計でも増加の傾向にある。

不公平感が生じないよう、徴収に努力されたい。

学習支援事業

受胎率が低く、成果が上がつ

ていない。事業のあり方を検討されたい。

町営バス

町内路線バスは利用客がないこともあり、バスの大きさ、デマンド方式導入など、運営方法の抜本的な見直しが必要だ。まずは一番地へ運行するバスには乗降案内を設けられたい。

有言烏獣除害事業

銃免許所持者等の確保が必要であり、捕獲1頭当たりの奨励金引き上げも含め、猟友会支援策が必要だ。

交流物産館

運営が厳しい状況にある、当初の目的が達成されるよう、各段の努力を求めている。

学習支援館

学習支援館の一定の成果は認め、引き続き生徒の学習支援の目的達成のため、あり方を十分検討されたい。

平成26年度の委託契約において、半年契約をした後に1年契約に変更されている。契約変更の理由が明確でない。適切な業務委託契約に留意されたい。

議会全員協議会の議題

10月30日

- ①赤赤小学校屋内運動場大規模改修工事の経緯説明
- ②環太平洋パートナーシップ(TPP)協定交渉の大筋合意を踏まえた総合的な政策対応に関する基本方針の情報提供

12月17日

- ①本庁舎建築工事請負変更契約の説明
- ②第2次総合振興計画(案)の説明
- ③飯南町総合戦略(概要版)の説明
- ④日本政策金融公庫松江支店との包括協定の説明
- ⑤農業振興計画の説明

12月18日

- ①飯原公民館建設事業の説明

10月30日

- ③飯南町保小中高一貫教育講演会開催報告
- ④馬根県立飯南高等学校「生命地域学」課題研究発表会開催の報告
- ⑧公共交通に関するアンケート調査結果の報告

12月11日

- ①飯南町議員の給与改定の説明
- ②飯南ラジオ局開局記念(健康体操講座)開催の報告

【12月定例会】 全19議案のうち、反対があった議案の採決結果は次のとおりです。

件名	結果	高橋英次	早稲徹雄	内藤員一	熊谷兼樹	門真二郎	長島正一	水井章	伊藤好晴	難波俊司
平成26年度飯南町各会計歳入歳出決算認定	認定	○	○	○	○	○	○	○	●	○
飯南町個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町税条例の一部を改正する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第6回臨時会(10月30日開催)

平成27年度飯南町立赤赤小学校屋内運動場大規模改修工事請負契約の締結 全会一致で可決

○賛成 ●反対



教育経済 常任委員会

委員長 長島 正一

平成27年度 飯南町一般会計補正予算(第4号)

地域振興費 50万円

内30万円は、長崎県大村市との友好交流都市協定締結に伴う交流促進事業として、小学生20名余を招き、1月9日より3日間、しめ縄づくりやスキー体験を行うための費用。

畜産費 1,200万円

下来島地内へ酪農参入を支援するもので、全額県の補助金。
将来は規模拡大の計画もあり、環境に配慮し、排泄物流失には10万全を期するよう求めた。

公営住宅建設事業費 583万円

この内、赤石公営住宅建設事業270万円は、工事請負費の増によるもの。基盤が軟弱なため、黒ぼく撤去により改良を図る。

社会教育施設費 1,556万円

町原公民館整備事業費で、民地購入費422万円、実施設計委託料・商工会・町車庫・民間車庫等の建物調査委託料1,133万円。
この複合施設整備の経緯や建物、土地の取扱い、補償金等の周辺整備の青写真について考え方を開示するよう求めた。商工会から入居要望があり、ルールに基づいて保償と共に応分な負担を求めるとの見解が示された。

視察研修報告

平成27年11月25日～27日 徳島県神山町・那賀町

徳島県神山町(人口5843人)

～IT系ベンチャー企業が集うまち～

県の中央部に位置し、過疎と少子高齢化の著しい町だが、町内全域に光ファイバー網が整備され、神山の里にはIT系企業が古民家を改修し、2015年9月現在12社がオフィスを開設・本社移転・新会社を設立している。

東京とは違った自然の中で働く「新たな働き方の革新」を求めると「まちづくりの革新」を求めるとの幸福な出会いがあつて今日がある町。

仕掛け人であるNPO法人グリーンパレーは、町の将来にとって必要になる働き手、企業誘致でなく人材誘致を目指している。

人材育成事業として、神山塾を開設(全国から塾生を募集)し地域活動を通じ、イベント等のノウハウを学ぶ職業訓練を行っている。また、芸術・文化による地域再生を図るため、芸術家によるアーティストの作品を集めるなど、幅広いビジネス展開を図っている。飯南町においても、革新的視点による地域創生と町内全域の光ファイバー網の整備は、急務と痛感した。



徳島県那賀町(人口9728人)

～1000mの山々に囲まれた山間地に暮らすお年寄りのミツマタ栽培～

以前は各地で、栽培・集荷が行われていたミツマタ栽培を那賀町の木沢林業家でつくる研究会は、ミツマタが野生動物の食害を受けにくいことに着目し、植林を積極的に進め山林の荒廃防止に取り組まれていた。

収穫したミツマタを加工して出荷することで、「お年寄りの収入確保と地元の交流の場になれば」と話されていた。ミツマタの皮は、国立印刷局に紙幣用原料として、出荷されている。

険かな剣山系での栽培は、想像を絶するところだが、たくましく取り組まれる姿に感銘を受けた。

※紙幣用原皮 30kg当たり約9万円

※NHKの国産ミツマタの減少報道により、問い合わせが殺到しているそうぞだ。



総務厚生 常任委員会

委員長 早樋 徹雄

平成27年度 飯南町一般会計補正予算(第4号)

繰上り償還元金・利子 2億2,635万円

カンントリーエレベーター、新庁舎建設などの大型事業による公債費の増加を平準化するため、減債基金(2億円)を取崩して繰上げ償還するもの。
合併による地方交付税の激減緩和措置があるうちに、繰上げ償還により一層の財政健全化を図ることは評価される。

公用車臨時管理費 160万円

今後の緊急な支払に対応するための公用車の修理費の追加。
事故防止のため、文書による指導など管理監督の徹底を求めた。

飯南病院事業会計補正予算(第1号)

病院事業収益など6,927万円の追加で、入院・外来収入の増が主なもの。

備するが、一方、各種産業の振興による活性化施策も模索しなければ地域活力が失われる。

地域住民が安心して住むことができるよう、地域包括ケアシステムの構築を目指し、町民に信頼される病院として、一層の飛躍を期待する。

視察研修報告

平成27年11月25日～27日 京都府綾部市・京丹後市

京都府綾部市(人口3.5万人)

～里山ねっと・あやべ～

NPO法人「里山ねっと・あやべ」を視察した。ここでは交流と定住対策の拠点として15年前廃校となった豊里西小学校校舎が利用されている。統合時の児童数は48人あったが、現在この校区は約250世帯で、児童数は10人余りと聞き、少子化に驚いた。

その豊里西小学校を都市農村交流の拠点として綾部市が「里山交流研修センター」研修・宿泊施設として改修した。里山ねっと・あやべが指定管理しているが、市とこの法人がうまく連携して事業を行っていると感じた。

「米作り塾」「そば塾」「茶摘み体験」など、多岐にわたる事業を展開し、主にITユーザーの経営による農家民泊の定着や、自然なありのままの交流が行われている。定住希望者には定住後、後悔しないよう綾部の暮らしを何度も体験、感じてもらうことを基本としていた。

交流と定住促進にNPO法人が一翼を担っており、定住を推進する組織のあり方として参考となった。



京都府京丹後市(人口5.8万人)

～市立久美浜病院～

平成27年2月、飯南病院と姉妹病院協定を締結した久美浜病院を訪れた。
この病院は、医師12名、歯科医師2名、歯科研修医5名、職員数144名、病床数170床、診療科目14科の規模で、この地域にふさわしい地域医療に取り組んでいる。赤木院長からこれまでの久美浜病院の取組、京丹後市における人材確保の試み、地方創生への思いなどを説明を受けた。

医師間の支えあいによる久美浜病院の意識改革、病院と施設の協働、医科と歯科の一本化など、地域医療に対する院長の理念と強い思いを感じた(このことは後日、飯南町で開催された「第4回生きがい村学会」で赤木院長等によりお話しいただいた。参加者も大変参考になったのではないかとと思う)。

飯南町も地域包括ケアシステムの構築を目指し、「生きがい村構想」を推進しているが、力強い同志と思う。両病院の交流が、医療、介護、介護の各分野の連携となり、地域住民が安心して住むことができるよう願って、視察を終えた。



いろんな経験を通して、 もっと町の魅力を感じたい。

飯南高校「鵬雲寮」3年生

吉賀臨太郎さん(伊丹市出身)と
益原侑希さん(加古川市出身)に飯
南町で生活した3年間の感想
を聞きました。

インタビューを通して、飯南
高校生と地域の人たちの交流
やこの地の文化を知ってもら
う機会をもっと作らなければ
ならないと感じました。



吉賀さん



益原さん

飯南高校を選んだ理由は

飯南高校へ来ることは、自分
で決めたのですが、県外生を受
け入れる寮のある高校を探し
ていて、島根県だけが受け入れ
てくれることを知り、その中で
この高校を選びました。

3年間を通じて

印象に残ったことは

半夏祭りはこの町の魅力の
一つだと思いますが、県外生を
含めた寮生は体験することが
できません。

県外生を受け入れる目的の
一つは、この地の魅力を知って
もらうことにあるのではないか

と思います。そういう人になぜ

飯南のお祭りに行かせないのか、
一番賑わいのある花火の時に
行っちゃいけないのか、校則、
ルールはあるにしても町の目
的と違うと思います。

僕はお祭りにどうしても行
きたくて、兵庫県から親に来て
もらって外泊し、一度だけ半夏
を体験することができましたが、
とても良かった、素晴らしいお
祭りでした。

県外生がこの経験ができる
ようになれば、もっとこの町の
魅力を感じることができるよう
になると思います。

この町を都会化しようとし
ているのか、自然を売りにした
いのかよくわかりません。もし
田舎に住むのなら、田舎らしい
田舎に住みたいじゃないですか。

「もっと楽しくなる町に」

高校の近くの商店に駄菓子
を置いてくれるようになりま
した。僕たちの好きなものを分
かってもらえて嬉しくなりま
した。できればもう少し種類を
増やしてもらえたらもっと嬉
しくなります。3年間ありがと
うございました。

今月の 表紙写真



「美味しいから、つついおかわりを」と、笑顔でご飯の進む飯南高校「鵬雲寮」の二
人をパチリ!!模擬試験を終えた藤川さん(右:3年生)と、クラブ活動から戻って昼ご飯の
岡田さん(左:1年生)の二人が食べているお米は、角井で採れた食味値80以上の飯南
米です。町内に親戚がある藤川さんは小さい頃から食べられたお米ですが、岡田さんは
初めての食感に驚いたそうです。たくさん食べてね。

編集後記

あけましておめでとうござい
ます。本年も、よろしくお願
いします。

12月議会では7人の議員が質
問に立ち、T P P問題や、教育、医
療、町道整備問題、また、防災訓練
や、公共交通体系の見直し等、様々
な視点から質問しました。

さて、選挙権年齢引き下げに伴
う若者の政治参加は、老若共同参
画社会づくりに向けて、大変重要
なことです。次世代を担う責任と
自覚をもって投票に出かけて欲
しいと思います。

議会としても、老若男女を問わ
ず、全ての世代の意見を聞き、町
政に反映出来るよう、活動に取り
組んでいきます。

この冬は暖冬と言われているま
すが、急な降雪に注意し、屋根の
雪下ろしなど、除雪作業による事
故が起きないように十分気を付
けてください。

議会広報編集委員会 高橋 英次